

# 3月16日の大倉山講演会

## 「今」を生きる —葉隠と禅、その現代的活用—

佐賀藩には山本常朝（1659～1719）の口述筆記『葉隠』がありました。江戸時代には写本によって読み継がれていましたが、明治時代になって大隈重信の勧めで出版されると、その警句・金言の卓抜さに世間は驚き、またたく間に広まりました。特に「武士道と言ふは死ぬことと見つけたり」の名句のように、生死脱得の法が端的に記されていることもあって、軍人の教育にも盛んに取り入れられました。

第二次世界大戦後その反動でしばらく言及されることは減りましたが、次第に『葉隠』の価値が見直され、いろいろの出版社から刊行され、現代語訳も数種類出されています。大倉精神文化研究所の創設者大倉邦彦は佐賀出身で、早くから『葉隠』の素晴らしさに注目し、『葉隠』を題材にした文章をたくさん書き残しています。

本講演では、『葉隠』の中で現代の私たちを勇気づける箇所、生きるヒントを与えてくれる箇所をいくつか取り上げて、『葉隠』の現代的活用法について考えてみたいと思います。

◇日時：平成31年3月16日(土) 午後2時～3時30分 (開場は午後1時40分)

◇会場：横浜市大倉山記念館 ホール

横浜市港北区大倉山二丁目10-1 大倉山公園内 (東急東横線大倉山駅下車徒歩7分)

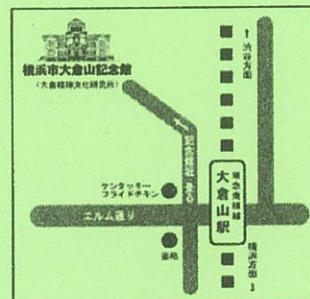
◇講師：島 善高 (早稲田大学教授)

◇定員：80名 (入場無料、予約なし当日先着順)

◇問合せ：(公財)大倉精神文化研究所 電話 045-834-6637

Eメール okuraseishinbunka@js6.so-net.ne.jp

ホームページ <http://www.okuraken.or.jp/>



主催：公益財団法人大倉精神文化研究所 共催：横浜市大倉山記念館指定管理者

次回 4月20日(土) 漢学と武道 —二松學舎の三島復を例として— 講師：

川邊 雄大 (二松學舎大學非常勤講師)